

【論文】

ワ族の歌のジャンル名称に関する民族言語学的分析

山 田 敦 士

1. はじめに

今日、インターネットを通じて様々な動画を鑑賞することができる。これは筆者の専門とする少数民族ワ族¹においても同様で、日本にいながらにして、中国やミャンマー、タイなどで製作された動画にアクセスすることが可能である。時間や空間の制約を超えることのできるこのツールは、コロナ禍で絶望的な研究環境におかれたフィールドワーカーに新しい道筋を与えてくれた。一次情報ほどの資料的な価値はないものの、インターネット空間に蓄積された動画を通じて、民族の新たな側面を知ることができたのは大きな収穫であった。

ワ族に関する動画の中心的題材は歌である。例えば、日本語の検索サイトで「ワ族」「歌」と入力すれば、母語で歌われたものやそれぞれの国語（中国語、ビルマ語、タイ語）で歌われたものなど、両手に余るほどの歌曲を鑑賞することができる。一方で、こうした歌は、フィールドワークにて見聞きしたものとは、歌の内容・外形ともかなり違うという印象をもつ。国家の主體的な民族からの文化的影響を考慮するとしても、これがワ族の歌文化のすべてということにはならない。ワ族自身がどのように歌を認識し、そのジャンルを分類しているか、立ち止まって考えてみたい。

実は、ワ族の言語（ワ語）には「歌」に相当する一般的な語彙が存在せず、したがって、歌研究の対象範囲は必ずしも明確ではない²。例えば、中国の百科事典である《中国大百科全书》の“佤族音乐（ワ族音楽）”の項目をみると、ワ族の民間音楽は“民歌”、“歌舞音乐（歌舞音楽）”、“民间器乐（民間器楽）”の3種類に分類されている（図1）。“民

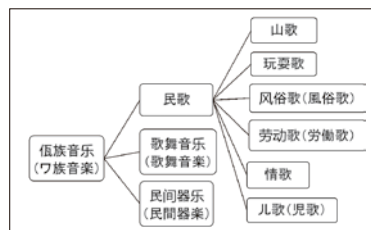


図1. 《中国大百科全书》によるワ族音楽の分類

¹ ワ族とは、中国における少数民族の一つである“佤族”、および隣接するミャンマーシャン州や北タイに居住する「ワ」や「ワー」などと称される人々に対する日本語の通称である。本稿でワ族やワ語という場合、特段の断りのない限り、最大支系のパラウク支族およびその言語（パラウク・ワ語）を指すものとする。ワ族についての詳細は山田(2009)、ワ語についての詳細は山田(2020)を参照されたい。

² ワ語は単音節性を強く示す言語であり、基礎語彙は単音節にて示される傾向がある。意味的抽象性の高い語彙は、複合による多音節語、または外来語の借用によって示されるケースが多い。例えば、陳(2015: 74)では「音楽」という概念について、loux lāi qang go「歌を歌う文字音声」（音声、文字、歌う、歌）という逐語的な表現をしている。

歌”はさらに“山歌”、“玩耍歌”、“风俗歌（風俗歌）”、“劳动歌（労働歌）”、“情歌”、“儿歌（児歌）”の6種類に分けられ、“歌舞音乐”は歌を伴う“歌舞”と歌を伴わない“乐舞（楽舞）”とで区別されている。この記載の根拠は不明ながら、「（歌とは）音楽的・言語的形式に従った発声行為」という梶丸（2013）の定義に従えば、6種類の“民歌”および歌を伴う“歌舞”あたりが本研究の射程といえよう。

歌は、リズムやテンポ、使用される音階やスケール、使用楽器、発祥地や背景となる思想など、多くの要素をもとに分類されていくものである。ワ族文化についての先行研究においても、いくつかの歌のジャンルが示されているが、立脚点の違いからか、統一的な見解には至っていない。そこで本稿では、先行研究における歌に関する語彙体系を検証し、調査にて得られた語彙を加えつつ、歌に関する語彙体系の整理をおこなう。

2. 歌をめぐる先行研究

ワ族の民族文化に関する観光素材として、歌や踊りが強調されることがある。しかし、歌自体を学術的見地から述べたものは多くない。管見では、中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编（不明）、赵岩社（2000、2006）、李柏松（2002）の4点のみである。一つ目の著者は不明、残りの著者はいずれもワ族である。以下、記載の古いものから順に取り上げ、それぞれの分類について略述し、内容の検証をおこなう。

本稿では先行研究中の記述を取り扱うため、ワ語形式を正書法表記によって統一的に示すこととする。正書法表記については、山田（2012）を参照されたい。また、議論の便宜を考え、それぞれの文献中の分類（歌のジャンル）に対し、表番号に紐づいた丸数字（表1に関するものであれば1-①、1-②など）を充てることとする。なお、日本語との区別を明確にするため、漢語による名称については“ ”で示すこととする。

2.1 中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编（不明）

中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编（不明）は、『中国民间歌曲集成 云南卷』というシリーズの構成部分として予備的に作成されたものである。滄源ワ族自治県を中心に、各地のワ族集落から収集した歌が所収されている。執筆年代は不明ながら、表記の不統一や混乱の状況から、1980年から1990年代の制作であったと推定される。歌に関してまとめた最初の文献といえ、資料的な価値も高い。

中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编（不明）では、歌のジャンルが漢語で示され、一部それに対応するワ語形式が併記され、それぞれのジャンルに属する歌の事例も示されている。各分類とその特徴について、表1に一覧を示す。

表1. 中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编 (不明) の分類

| | 歌のジャンル名 | 特徴 |
|-----|--------------------------------|--------------|
| 1-① | loux ngeei “山歌” | 句数、字数、押韻 |
| 1-② | nqom loux ah “唱调” | 即興性、情歌 |
| 1-③ | loux glieh “玩调” | 固定的な歌詞、輪唱・合唱 |
| 1-④ | — “劳动歌曲” | 独唱・斉唱・合唱・輪唱 |
| 1-⑤ | — “风习歌曲” | |
| 1-⑥ | loux glien mai mgao tiao “歌舞曲” | 集団舞蹈 |
| 1-⑦ | loux glih gon nyom “儿歌” | |

中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编 (不明) において、歌は七つのジャンルに分類されている。このうち1-①から1-③は、「音声」の意味を表わすlouxに対し、動詞ngeei「節をつける」、ah「話す」、glieh「遊ぶ」が後ろから修飾するという構成である（1-②はさらにnqom「特徴」が被修飾要素となって「話す音声の特徴」という意味）。1-①の漢語訳が“山歌”という非対訳的形式であることに違和感が残るものの³、少なくともワ語形式のほうでも三つの区別がなされている。それに対し、1-④と1-⑤はワ語形式が示されていないことから、漢文化をベースにした分類であることがうかがえる。また、1-⑥と1-⑦については、ワ語形式がそれぞれ「踊りを差し挟むとともに遊ぶ音声」「子供が遊ぶ音声」という逐語訳的な句表現⁴であることから、これらも漢語的視点が前提となった可能性がある。

歌ジャンルに付随する特徴をみると、前三者と後三者とで違いがみられる。1-①から1-③分類には形式（歌い方）による特徴記述がある。このうち、1-①の「句数、字数、押印」といった形式的な縛りや1-②、1-③の歌詞の固定性／即興性といった特徴は、きわめて重要な、弁別性の高いものといえる。他方、漢語の先行する1-④から1-⑦のジャンルは、内容（場面）を重視したものといえ、分類基準としてはやや弱い印象を受ける。

2.2 赵岩社 (2000)

赵 (2000) は、ワ族の文化を包括的に述べた著作である。歌については、八つのジャンルがワ語と漢語のセットで提案されているが、分類の根拠となる具体的な特徴およびワ語形式による歌の例などは示されていない。表2に分類の一覧を示す。

³ 「山歌」という用語は、中国における歌の分類としてよく使われるものである（梶丸2013）。

⁴ 1-⑥のglienと1-⑦のglihはgliehの誤植または方言的な形式と考えられる。

表2. 赵 (2000:144-148) の分類

| | 歌のジャンル名 |
|-----|----------------------------|
| 2-① | loux ngeei “吟唱歌” |
| 2-② | glao “共乐歌” |
| 2-③ | brie “欢呼歌” |
| 2-④ | nkreh “踏歌” |
| 2-⑤ | loux glieh “玩耍歌” |
| 2-⑥ | loux ah “清唱歌” |
| 2-⑦ | loux glieh gon nyōm “儿歌” |
| 2-⑧ | loux mglaig gon nyōm “摇篮曲” |

表2中の2-①と2-⑤、2-⑥は、前節の中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编（不明）の分類にも見られるものである。これらはngeei「節をつける」、glieh「遊ぶ」、ah「話す」という動詞部分のみの違いによるもので、歌い方に着目した分類といえる。2-⑦と2-⑧については、それぞれ「子供の遊ぶ音声」「子供をあやす音声」という逐語訳的な句表現であり、ワ族自身の分類かどうかはわからない。

2-②から2-④（nkrehはnkraohの方言的変異）は、それぞれ「混ぜる」、「歓声を上げる」、「踊る」という動詞的意味をもつ形式である。ワ語では動詞から名詞への無標での品詞転換がまれ（山田2008）であるため、さらなる検証が必要である。しかし、複合によらない単音節語形式の指摘は注目される。

2.3 李柏松 (2002)

著者は、ワ族の著名な音楽家であり、雲南音楽家協会の理事を務める人物である。本書は、具体的な歌をワ族の正書法表記の歌詞にて譜面とともに示しているところに特徴がある。所収されている歌の多くは2.1節の文献と同じであることから、当該文献を今日的な資料として整理したものと考えられる。分類とその特徴について、表3に一覧を示す。

表3. 李 (2002) の分類

| | 歌のジャンル名 | | 特徴 |
|-----|---|----------------|--------------|
| 3-① | loux glao / loux ngeei / loux nqom gab “山歌” | | 句数、字数、押韻 |
| 3-② | nqom loux ah “唱调” | | 即興／固定、情歌 |
| 3-③ | loux glieh “玩调” | | 固定的な歌詞、輪唱、合唱 |
| 3-④ | loux (ah) ndaex gāing “劳动歌” | | 独唱、斉唱、合唱、輪唱 |
| 3-⑤ | loux dai nbēen oud “风习歌” | glao (祝賀的) | |
| | | nkreh (祝賀的+踊り) | |
| | | blie (勝利の祝い) | |
| 3-⑥ | loux mai nkraoh “歌舞” | | 集団舞踏 |
| 3-⑦ | loux nqom glieh gon nyom “儿歌” | | |

表3をみると、3-①から3-③は歌の形式面に特徴のある分類であり、3-④以降は歌い方や場面に着目した分類であることがわかる。3-①の歌詞を縛る形式性や3-②、3-③の歌詞の固定性は、2.1節にも通じる重要な記述である。3-⑤中の細分類のglao、nkreh、blieについては、2.2節の趙 (2000) にも見られる分類である (blieはbrieの自由変異形)。李 (2002) はこれらを場面と歌に付随する要素 (踊りなど) に基づき、loux dai nbēen oud “风习歌” の下位分類としている。loux dai nbēen oudとは「在地の風俗習慣をたどる音声」であり、glao、nkreh、blieは文化的な場面に条件づけられた歌であると推測される。一方、3-①において、loux ngeei “山歌” の同類としてloux glaoという形式を挙げている。祝賀的な歌も押韻などの形式性を伴う場合があるということであろう。その意味で、3-①と3-⑤は分類基準が異なるという前提が重要である。

また、3-④のloux (ah) ndaex gāingは「仕事の中 (で発する) の音声」、3-⑥のloux mai nkraohは「踊りと一緒にの音声」、3-⑦のloux nqom glieh gon nyomは「子供の遊ぶ特徴の音声」であり、いずれも逐語訳的な句表現である。やはり、2.1節、2.2節の場合と同様、漢文化的な視点がうかがわれ、ワ族の歌のジャンルとして確立したものかどうかは不明である。

ここで、3-①中にあるnqom gabという言葉に注目したい。nqomは「特徴」の意味を表わす名詞、gabは「合わせる、合流する」を表わす動詞であり、loux nqom gabは字義的には「(何かを) 合わせる特徴を持った音声」と解釈される。これは何を意味するのであろうか。次節および第3節で考察する。

2.4 赵岩社 (2006)

2.2節と同一人物による著作である。歌のジャンル名称も2.2節と一致しているが、こちらには若干の特徴が示されている。ただし、元々が文法研究書であるため、例示は歌詞の一部のみにとどまる。分類とその特徴について、表4に一覧を示す。

表4. 趙 (2006:244-258) の分類

| | 歌のジャンル名 | | 特徴 |
|-----|----------------------------|-------------------|---------------------|
| 4-① | loux ngeei “吟唱調” | nqom gab “格律体” | 句数、字数、対称性、 押韻、平仄 |
| 4-② | glao “共乐調” | | |
| 4-③ | brīe “欢呼調” | | |
| 4-④ | nkreh “踏歌調” | | |
| 4-⑤ | loux glich “玩調” | — “自由体” | 上記条件を一つ程度実現 |
| 4-⑥ | loux ah “唱調” | | |
| 4-⑦ | loux glich gon nyōm “儿歌” | | |
| 4-⑧ | loux mglaiḡ gon nyōm “摇篮曲” | | |

趙 (2006) は歌に八つのジャンルを認める。そのうえで、それらを“格律体”と“自由体”に大きく集約し、このうちの“格律体”に対して nqom gab という語を当てている。その一方、“自由体”に対するワ語形式はなく、こちらは便宜的な名称のようである。両者の分類基準は形式的条件にあるが、“自由体”にも形式的条件を実現する場合があるようで、この大分類自体に明確な境界線があるわけではない。

前節において、nqom は「特徴」を表わす名詞、gab は「合わせる、合流する」を表わす動詞であることを述べた。つまり、“格律体”の対応形式とされた nqom gab は、字義的には、「(何かを) 合わせる特徴」と考えられる。このことから、ワ語における nqom gab とは、“格律体”というような分類そのものではなく、“格律体”らしさ、つまり「形式的な同質性」を指すものと考えたい。そして、そうした形式的な同質性は、趙 (2006) の“自由体”の各ジャンルを含め、度合いをもって実現されるものと推測される。

2.5 文献以外からの情報

ミャンマーとの国境では、レーベル版や私家版というかたちの娯楽用 VCD・DVD が流通している。こうした VCD や DVD には、上述の分類にはない、loux hrax と mgrong mgraoh (または mgrong nkraoh) という歌ジャンルの形式が二つみつまっている (表 5)。

表5. VCD・DVD にみられる分類

| | 歌のジャンル名 |
|-----|--|
| 5-① | loux hrax |
| 5-② | mgrong mgraoh (または mgrong nkraoh) “打歌” |

loux hrax について、loux 「音声」に対して hrax 「読み上げる、暗唱する」が修飾した「読み上げる音声」の字義となるため、歌詞のようなものを前提とする歌ジャンルではないかと考えられる。

loux hraxと記されたVCDやDVDにキリスト教の宗教活動にかかわるものがあることを考え合わせると、例えば、讃美歌のような「歌詞を誦んじる」ものを指す可能性も考えられる⁵。

一方のmgrong mgraoh (またはmgrong nkraoh) について、mgrong は「間、中間」、mgraoh (またはnkraoh) は「踊る」の意味であるので、「踊りの最中に歌うもの」と考えられる。今日のダンスミュージックなどもこれに含まれるようである。前節までに登場したloux glien mai mgao tiao (2-⑥)、loux mai nkraoh (3-⑥)、nkreh (2-④、4-④) との関係は不明であるが、いずれも語ではなく句表現であることを考えると、このジャンルはまだ一般名詞化される以前の、様々な表現される状況にあるのかもしれない⁶。

3. 考察

2節で述べてきた歌のジャンル形式を対照表として表6に挙げる。それぞれの対応関係はあくまで推定であるが、暫定的に6-①から6-⑨の九つのジャンルを認めることができる。ただし、この分類には形式と場面の基準が混在していることは留意しておきたい。

ワ族の歌のジャンル名称について、二つのことが指摘される。一つ目は、これはすでに先行研究において指摘される場所であるが、歌には「定型性」が存在するということである。ここでいう「定型性」とは、決まりきった歌詞という意味の「内容的定型性」、句数や韻律などの整った形式という意味の「形式的定型性」である。2.4節において、2.3節の李(2002)で歌のジャンル(3-①)の一つの構成要素とみなされていたnqom gabについて、これを「形式的な同質性」とみる可能性について述べた。本稿では、このnqom gabこそがこうした「定型性」を広く指す用語であると考ええる。

もう一つは、歌のジャンルと定型性nqom gabとの関係である。表6にあげた歌の各ジャンルは、定型性nqom gabの有無によって単純に規定されるというわけではない。例えば、一方には祝詞のようなnqom gabを厳格に履行すべきものがあり、他方では歌謡曲のようなnqom gabの縛りが緩やかな、即興性や創造性が許されるものがある。すなわち、定型性nqom gabとは言語文化的なパターンの束であり、それぞれが歌う場面や内容に即して、「度合い」をもって実現するものと考えられる。

なお、ジャンル名称全体をみると、nqom gabの度合いの高いものほど、ジャンル名称も語形式として安定している(6-①や6-②、6-③など)。逆に、nqom gabの度合いが薄まるほど、ジャンル名が句表現となる傾向があり、(有無も含め)その形式に幅や揺れが認められる(6-⑦や6-⑧など)。その点からも、定型性nqom gabが言語文化的な安定性を担保する機能をもっていたことがうかがえる。

⁵ 中緬国境のワ族には、キリスト教を信奉する集団がある。詳細については山田(2014、2019)を参照されたい。

⁶ 工藤(2005)には、ワ族の「歌垣」「歌掛け」についての言及がある。ジャンルを表わす用語の有無も不明であるが、「歌垣」や「歌掛け」と形式的同質性の関係性についてはさらに検討する必要がある。

表6. 歌ジャンルに関する語彙体系の対照

| 中国民间歌曲集成云南卷编委会 办公室 编 (不明) | 李柏松 (2002) | 赵 (2000) | 赵 (2006) | VCD、DVD より |
|--|---|----------------------------|-----------------------------|------------|
| loux ngeei “山歌” | loux ngeei “山歌” | loux ngeei “吟唱歌” | loux ngeei “吟唱调” | 6-① |
| | loux glao “山歌” | glao “共乐歌” | glao “共乐歌” | 6-② |
| | loux nqom gab “山歌” | | nqom gab | |
| loux glien mai mgao tiao “歌舞曲” nqom loux ah “唱调” loux glieh “玩调” “劳动歌曲” “风习歌曲” | | brie “欢呼歌” | brie “欢呼歌” | 6-③ |
| | loux mai nkraoh “歌舞” | nkreh “踏歌” | nkreh “踏歌” | 6-④ |
| | nqom loux ah “唱调” | loux ah “清唱歌” | loux ah “唱调” | 6-⑤ |
| | loux glieh “玩调” | loux glieh “玩耍歌” | loux glieh “玩调” | 6-⑥ |
| | loux (ah) ndaex gaing “劳动歌” loux dai nbéen oud “风习歌” glao (祝贺的) nkreh (祝贺的 + 踊り) blie (胜利的祝い) | | mgrong mgraoh (nkraoh) “打歌” | |
| loux glieh gon nyom “儿歌” | loux nqom glieh gon nyom “儿歌” | loux glieh gon nyōm “儿歌” | loux glieh gon nyōm “儿歌” | 6-⑦ |
| | | loux mglaiɡ gon nyōm “摇篮曲” | loux mglaiɡ gon nyōm “摇篮曲” | 6-⑧ |
| | | | loux hrax | 6-⑨ |

4. おわりに

本稿では先行研究の検証を通じて、ワ語における歌のジャンルについて考察してきた。その結果、形式的な基準による分類と場面や歌の内容に基づく分類が混在するものの、現状では九つのジャンルを認めることができることを示した。それぞれの分類名称は語彙化しているもののほか、まだ用語として確立せず、揺れが見られる状況のものもみられる。また、nqom gabと呼ばれる定型性が存在すること、そしてその定型性は九つのジャンルそれぞれで度合いをもって実現されている可能性についても指摘した。

今後は、句数や押韻などの形式的な定型要素、また語彙や内容などの意味的な定型要素など、nqom gabの具体的な条件についての解明が不可欠である。具体的な事例を追いながら分析をすすめていくこととする。またこれと並行し、どういう人が、どういった場合に、どの程度のnqom gabを実現するかについても調べる必要がある。特に句数や押韻といった形式的な定型性の実現は、言語文化的な威信と結びついていることが想像され、そうした社会言語学的文脈との相互関係を解明することも重要な課題となる。

謝辞

本稿は第48回社会言語科学会研究大会（福岡女子大学）で発表（ポスター）した内容のうち、特に語彙体系の部分に焦点をあて、加筆修正をおこなったものである。有益なコメントをくださった方々に感謝を申し上げる。

参考文献

陈国庆 (2015)『佤语366句会话句』社会科学文献出版社

梶丸岳 (2013)『山歌の民族誌：歌で詞藻（ことば）を交わす』京都大学学術出版会

工藤隆 (2005)「中国雲南省ワ（佤）族文化調査報告」『アジア民族文化研究』4、1-45

李柏松 (2002)『佤族民歌』云南民族出版社

山田敦士 (2008)「孤立的言語における名詞と動詞の相通性：中国語とパラウク・ワ語の対照から」『アジア・アフリカの言語と言語学』3、61-76

山田敦士 (2009)『スガンリの記憶：中国雲南省ワ族の口頭伝承』雄山閣

山田敦士 (2012)「ワ語方言からみた正書法」『北海道民族学』8、27-34

山田敦士 (2014)「山地民にとっての文字：中国雲南省ワ族の事例から」クリスチャン・ダニエルス編『東南アジア大陸部山地民の歴史と文化』、193-216、言叢社

山田敦士 (2019)「滄源ワ族自治州における書承文化：無文字社会における文字表記とテキストのゆくえ」山田敦士編『中国雲南の書承文化：記録・保存・継承』勉誠出版

山田敦士 (2020)『パラウク・ワ語』くろしお出版

赵岩社 (2000)『佤族生活方式』云南民族出版社

赵岩社 (2006)『佤语概论』云南大学出版社

中国民间歌曲集成云南卷编委会办公室 编 (不明)『云南民间歌曲集成 云南卷初选稿汇编 临沧部分』(未公刊資料)